2020年度京都ワークハウス後援会活動まとめ(案)

1)後援会の拡大で支援の輪を広げよう 目標450口（会計別紙参照）

今年度は、後援会員 418 口でした。目標数には届きませんでしたが、年度初めのワークハウスつうしんに後援会の更新・入会を呼びかけ、たくさんの方が更新してくださり、新たに会員となってくださる方もおられました。コロナ禍で様々な活動が制限される中、刷新した物品カタログに後援会入会の案内を掲載するなど工夫しました。

会員一口につき一枚の優待券(まんまん堂100円)の発行を行い、85 枚の利用がありました。

今年度はコロナ禍での事業運営を支えていただくために**『緊急ひろがれ夢募金』**に取り組みました。

つうしんや物品販売時に呼びかけ、たくさんの後援会員さんがお知り合いの方にお願いをしていただき、目標の 100 万円を大きく上回る 198 万 9529 円の募金をいただきました。ワークハウスの仲間たちの元気なメッセージ（絵や文字）を添えてお礼の手紙を届け、温かい交流も生まれています。また、コロナで出勤を控えた府外に住むグループホーム世話人さんに対し、会長・事務局で検討し、臨時的な対応として、見舞金（3 名に各 1 万円）を支給しました。

2)事業活動（会計別紙参照）

事業活動は資金作りや工賃アップの財源として重要な活動であるとともに、市民の皆さんの理解や支援の輪を広げる機会としても、とても大切な活動です。コロナ禍でどんなことができるかワークハウスのご家族など関係者の方にアンケートでアイデアを募り取り組みを始めました。

コロナ感染拡大の中、マスクの需要が一気に増え、店頭からマスクが消えてしまう事態となりました。「布マスクを作ろう！」マスク製作を後援会事業活動に位置づけ取り組みました。ご家族の方や関係者から生地を提供いただき子供用サイズや、季節に応じた柄を用いた商品づくりをして、物品販売でも多くご購入いただきました。

◎物品販売

今年度は、コロナ禍でわくわくフェスタ、映画会を中止し、それに代わる活動・資金作りとして、例年の夏・冬・バレンタインに加え、**秋の物品販売**と 4 回取り組みました。

秋から自主製品カタログの刷新に取り組み、写真・イラストを活用して商品をわかりやすく魅力を伝え、自主製品の注文増につながりました。新作蒸しまんを物品カタログ掲載からはじめ、店頭の新メニューにも定着しました。商品の種類を増やすため、小川珈琲、大山乳業のギフト商品の取り扱いも行いました。

夏・秋・冬・ﾊﾞﾚﾝﾀｲﾝで総売り上げは 600 万円を超え、収益の 159 万 3256 円（目標 100 万円）を仲間の工賃に充当しました。　バレンタインの時期は 2 度目の「緊急事態宣言」下で、感染対策を徹底し職員のみでカタログを配布、郵送も活用しました。

物品販売の取り組みの中で、『緊急ひろがれ夢募金』、国会請願署名・募金を合わせて呼びかけ、たくさんの個人・団体の皆様に協力していただきました。　一方で、カタログデザインの計画から印刷までのテンポの遅れや、カタログに載せる商品のストックの準備不足、受注・発注・仕分けの実務作業の連携など次年度への課題も残りました。

◎恒例の**大山クリスマスケーキ**（17 個、売り上げ 68535 円）**前進座**のチケット（3 枚、売り上げ 18000 円）斡旋に取り組みました。

◎わくわくフェスタ

今年度はコロナ禍で初めての中止となりました。たくさんの方々、団体の皆様にボランティアやステージ企画、広告協賛にご協力いただく行事で、年度初めに中止の判断をして、お知らせを送らせていただきました。また、施設前の掲示やつうしんやホームページで、地域の皆様に中止のお知らせをしました。

◎映画会

わくわくフェスタ同様、今年度は中止となりました。

わくわくフェスタ、映画会を楽しみに、中止を残念に思われるお声を多くいただき、地域の方々、関係者の皆様にひろく根付いている取り組みだと改めて感謝する次第です。次年度どのようにして地域の方々とのつながりをつくっていくかの取り組みの工夫が必要です。